

八重山のサンゴ礁を救う「サンゴ認定制度」

WWF サンゴ礁保護研究センター
石西礁湖サンゴ礁基金

■サンゴ認定制度とは？

八重山のサンゴ礁が厳しい状況にある中、サンゴ礁を保全する行動や取組を認定する制度の可能性について検討を開始しました。

八重山のサンゴ礁から恩恵を受けている、もしくは影響を与えている様々な事業者や産業関係者などを対象に、サンゴ礁の保全につながる取組や行動を認定させていただきます。そして、そのような取組を普及・拡大していくことで、サンゴ礁生態系への負荷を減らし、サンゴ礁生態系からの恩恵を持続していこうとするものです。

この実現には、様々な産業関係者、行政などのご協力が必要です。現在は、産業関係者や行政の方々にご意見をお伺いしながら、その可能性を検討しています。

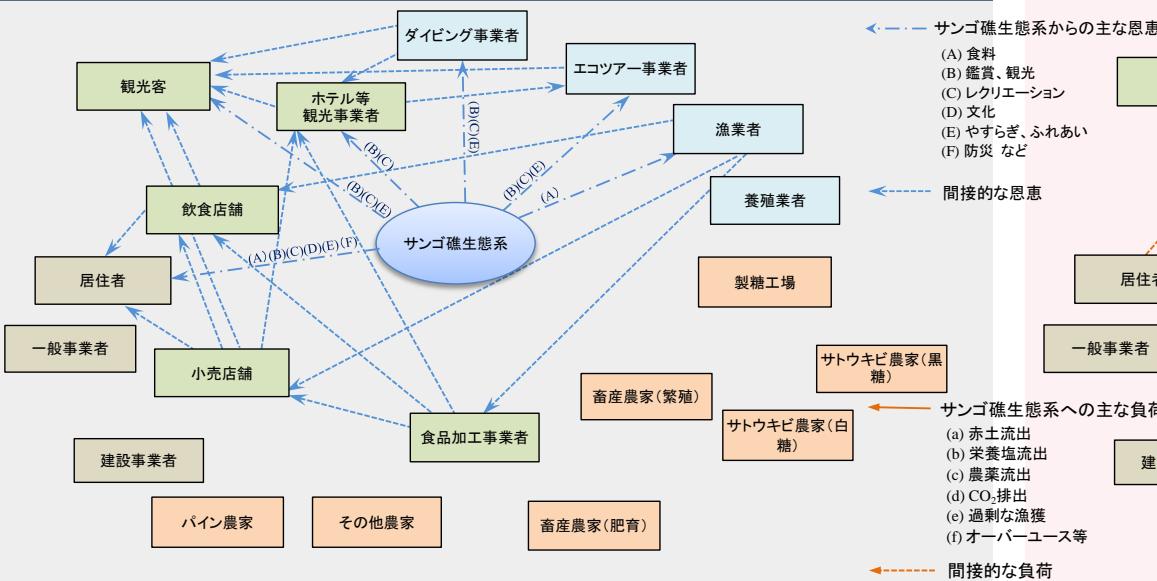
■アメリカのコロンビア川流域では・・・

アメリカのコロンビア川流域では、サケを守るための“Salmon Safe”（サーモン・セーフ）という認定制度が成功しています。

流域の農業などの産業活動を対象に、川の水質や流量等に配慮する活動や製品を認定しています。例えば、畑のかんがい用水を節水し、農薬を使わないで栽培された作物、それを原料に製造されるワインやビールを購入することが、サケの生態系の保全につながるのです。

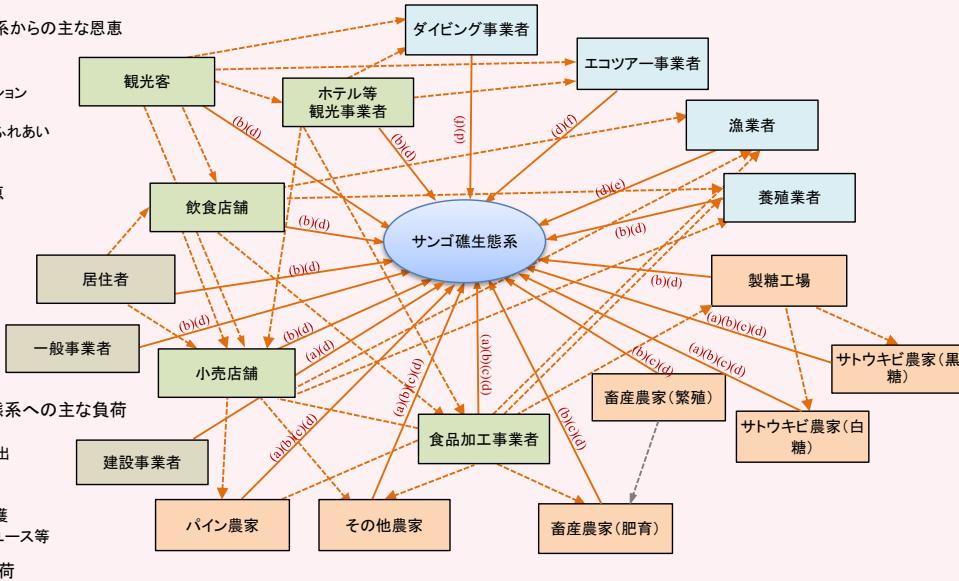


■八重山のサンゴ礁の恩恵



八重山のサンゴ礁から恩恵(生態系サービス)を受けているのは、居住者、観光客、観光事業者、ダイビング、エコツアー事業者、漁業者などの方々です。これらを持続する必要があります。

■八重山のサンゴ礁へのマイナスの影響



観光、農業、商工業などの産業関係者や、居住者、観光客も含め、すべての方々がサンゴ礁へ直接的もしくは間接的にマイナスの影響を与えています。これらを減らしていく必要があります。

■サンゴ認定の可能性

◆肉用牛の畜産への可能性

畜産の排泄物の適切な処理や堆肥化を行う畜産農家の肥育牛やその肉製品等を認定できれば、窒素やリン等の海域への流出を減らせる可能性があります。

畜産農家にとっては、収益増、差別化、品質保証につながる可能性があります。



◆サトウキビ栽培への可能性

例えば、夏植え栽培の輪作として、ベニイモやゴマ等の作物やその加工品を認定して輪作が普及できれば、赤土流出を減らせる可能性があります。

農家にとっては、耕土が保全できるとともに、生産性の向上にもつながる可能性があります。



◆パイン栽培、その他農業への可能性

マルチング栽培されたパインの認定で赤土流出が低減されます。化学肥料や農薬を減らした農産物を認定できれば、窒素やリン等の流出を減らせる可能性があります。

農家にとっては、農地の持続性が向上し、品質向上につながる可能性があります。



◆店舗、ホテル等への可能性

既存の店舗やホテル等の節水や排水の削減、下水道接続などを認定すれば、窒素やリン等の海域への流出を減らせる可能性があります。

店舗やホテルは住民や観光客に、認定取得をPRでき、差別化につながる可能性があります。



◆漁業への可能性

獲る魚の制限や禁漁期間の設定、産卵保護区の設定、養殖漁業などを認定することで、サンゴ礁生態系の保全・再生につながる可能性があります。

漁業者には、魚の保護と増殖、他地域の水産物との差別化につながる可能性があります。



沖縄県水産海洋技術センター資料

◆ダイビングやエコツアーへの可能性

オーバーユースの低減、船のアンカリングによるサンゴの損壊の規制の取組、オニヒトデ駆除等を認定することで、サンゴ礁への影響を低減できる可能性があります。

ダイビングやエコツアー事業者の差別化や品質保証につながる可能性があります。

